日野デュトロ Z EVの

はたらく空間

脱炭素×超低床×荷台の工夫で挑む持続可能な地域づくり

「地球の未来を思う。働きやすさを考える。」 このメッセージを体現する日野デュトロ Z EVが、今、各地で走り始めています。日々の負担を減らし、新しい取り組みの可能性も広げていく。そうした新しい一歩を踏み出した現場を訪ねました。



「環境配慮のシンボルとして、市民生活と地球保全を両立させます」と『日野デュトロ Z EV』に期待を込める鈴木 憲司課長。

環境と暮らしの両立へ。自治体全国初のEVトラック導入

茨城県の最北端、太平洋に臨む北茨城市は“ゼロカーボンシティ”の推進に向け、地域の新電力会社の設立などクリーンエネルギーの地産地消を進めています。その具体的な取り組みのひとつとして、同市では自治体で全国初となる小型BEVトラック『日野デュトロ Z EV』を導入しました。

「地域全体での環境負荷低減に向けた活動の一環として、また超低床の荷台の使いやすさや普通免許で運転可能なことが導入の決め手になりました」と語る、環境産業部生活環境課の鈴木 憲司課長。同車両が資源ごみ回収で活躍する姿を通じて、市民生活の利便性と地球環境保全の両立という、市の先進的な姿勢を伝えるシンボルとなることが期待されています。今後は、新設されたバイオマス発電を行うごみ処理施設『高北清掃センター』からの電力充電構想や、災害時の非常用電源など、持続可能な地域づくりに向けて多角的な活用が進められる方針です。

北茨城市役所
住所:茨城県北茨城市磯原町磯原1630番地
電話:0293-43-1111(代表)



日野デュトロ Z EV ここを評価！

資源ごみ回収で実感！”現場”の働きやすさ

『日野デュトロ Z EV』は、現場で資源ごみ回収にあたる職員からも高い評価を得ています。超低床構造による優れた荷役性やEVならではの優れた静粛性は、身体的な負担を和らげる効果を発揮。また、普通免許で運転できるため人員の選択肢を広げ、柔軟な車両ローテーションと業務の効率化を実現しています。揺れが少なく、乗用車に近い乗り心地と小回りが利くコンパクトな車両は、運転に不慣れな一般職員でもマイカー感覚で安心してハンドルを握れると好評です。さらに、荷台に出窓を設置して長物の運搬を可能にするなど、用途に合わせて荷台を自在にアレンジできる点も、高く評価されています。



市の環境姿勢を視覚的に伝える、さわやかな車両のデザイン。同市の名物“アンコウ”のイラストが可愛らしく描かれています。

普通免許でイージードライブ！



普通免許で誰もが運転できるため、車両配置やローテーションの柔軟性が向上。急な人員手配が必要な際にも重宝されています。

超低床で回収作業の負担を軽減！



ラクに乗り降りできる超低床設計により、膝や腰への負担を軽減。重い資源ごみも高く持ち上げず、安全に回収できます。また、荷台に並べたプラスチック製ケースが液漏れを防ぐなど、効率的な分別積載を支えます。

独自の出窓で長物運搬も万全！



荷台には、物干し竿などの長物を効率よく運搬できるよう、独自の「出窓」を加工。『日野デュトロ Z EV』でも自由度の高いボデー架装が可能なことを示す、同市ならではの工夫が光る仕様です。